

2017年7月11日(火曜日)の**下野新聞**に

**九州北部豪雨被害の支援**について紹介されました!

# 「恩返し」支援広がる

県内自治体  
民間企業も

九州豪雨

九州北部の豪雨を受け、2015年9月の関東・東北豪雨で大きな被害があった県内市町などで支援の輪が広がっている。

15年の豪雨で土石流被害があり今も復旧工事が続く。目的に行った。

候補地付近は、東北大の大槻憲四郎名誉教授(地質学)が調査で「危険渓流」と指摘。町議は大槻名誉教授がまとめた結果と現地状況を確認しながら視察した。

日光市は10日、市役所2階の市民課窓口と日光、藤原、足尾、栗山の各行政センターに募金箱を設置した。同市社会福祉協議会(社協)でも受け付ける。8月末までの予定で、義援金は日本赤十字社を通じて被災地へ送る。

同市防災対策室は「全国の皆さんに助けてもらった恩返しとして、できる限りの支援をしたい」と協力を呼び掛けている。

鹿沼市も同日、市役所窓口に募金箱を設置。今後、各コミュニケーションセンターなど市内計15カ所に拡大する。同市社協は、熊本地震の被災地などで活動した災

した。

支援の輪は民間企業にも。災害・非常用缶詰パン「救缶鳥」を製造販売する那須塩原市東小屋のパン・アキモト(秋元義彦社長)は福岡、大分両県に計約4500食分を送った。

## 犠牲者24人に

九州豪雨

九州豪雨の被災地では10日、甚大な被害が出ている福岡県朝倉市で自衛隊や消防などが過去最大の約2千人態勢で捜索を続け、新たに男女3人が心肺停止状態で見つかり、いずれも死亡が確認された。福岡、大分両県の犠牲者は計24人となっ